

## 令和5年第13回教育委員会会議

令和5年11月1日

午後 1時30分 開会

### 1 開会宣言

○廣瀬教育長 では、定刻を過ぎておりますので、ただいまから令和5年第13回教育委員会会議を開催いたします。

会期は本日限りといたします。

本日の会議の欠席者を教育総務課長から報告をお願いいたします。

○森教育総務課長 教育総務課でございます。よろしくをお願いいたします。

本日はお二人、金原人権・同和教育課長と杉田政策推進監が欠席となっております。

なお、議案第25号、四日市市立幼稚園条例の一部改正について、説明者として、田中保育幼稚園課長、上島こども施設再編推進室長が出席する予定でございます。

なお、本日、報告事項、令和5年度全国学力・学習状況調査結果の分析についての補足資料としまして、お手元でございますが、令和5年度全国学力・学習状況調査の関連問題、保護者向けリーフレット、読解力を育む20の観点を机上配付させていただいております。恐れ入りますが、御確認をお願いいたします。

○廣瀬教育長 資料はよろしいでしょうか。

では、傍聴者はお見えですか。

○伊藤教育総務課主幹 本日の傍聴者は1名です。

### 2 会議録署名者の決定

○廣瀬教育長 それでは、会議録署名者の決定に移ります。

お諮りいたします。

本委員会の会議録署名者として、伊藤委員と堀委員とでお願いしたいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○廣瀬教育長 御異議がないようですから、提案どおり決定をいたします。

### 3 議事

○廣瀬教育長 これより議事に入ります。

本日の議事は、議案1件、報告事項3件ですが、議案第25条、四日市市立幼稚園条例の一部改正については、今後、市議会等で審議、検討される事項でありまして、報告事項、本市におけるいじめ事案については、個人情報を含む案件であるため、非公開で審議する必要があります。なお、本市におけるいじめ事案についての参加者は、教育長、教育監、教育総務課長、学校教育課長、指導課長、教育支援課長としたいと思います。皆さん、御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○廣瀬教育長 御異議がないようですから、後ほど非公開にて審議をいたします。

## (1) 報告

### 1 令和5年度全国学力・学習状況調査結果の分析について

○廣瀬教育長 それでは、報告事項の説明に入ります。

報告事項、令和5年度全国学力・学習状況調査結果の分析についての説明をお願いします。

指導課長、お願いいたします。

○草川指導課長 指導課長、草川です。

資料53分の8の目次から始まります。全国学力・学習状況調査結果の分析について御報告します。

まず、53分の9を御覧ください。

令和5年度、黄色の部分が、小学校、国語、算数、中学校、国語、数学、英語と、こういった教科で行われました。そして、御覧のとおり、小学校は、国語では、本市67、三重県も67、全国は67.2と、四捨五入すると67でほぼ同等。小学算数も61、県は62、国が62.5、やや下回る。中学校の国語は、本市は71、全国は69.8とやや上回る。中学校数学も、本市は53、そして全国は51と上回っている。英語につきましても、本市47、全国は45.6と、中学校については全て上回っているという結果でございます。

次のページ、53分の10を御覧ください。

この上段には、全国の平均生徒数を100としたときの本市の比較を経年で表したものです。中学校3年生は、実は、コロナ禍で小6の学調を受けていないため、その学年の変

化がどうかということしかお示しできません。ただ、みえスタ等で各校の経年変化で示しまして、各校に渡させてもらいました。結果も随分中学校はすごく伸びているということも分かります。

無回答率の経年変化につきましては、これも全国との差がちょっと広がっていて、つまり、無回答率が非常に少なくなっているというふうに捉えることができます。非常に根気強く、粘り強く、諦めず頑張ったという姿が見えております。

強み、弱みを、小中、そして教科別に示したのがその下の表です。御覧いただくとお分かりのように、例えば中学校の数学ですと、根拠と成り立つ事柄を示して理由を説明すること、これが強みとして挙げられています。以前は、この辺は弱みだった記憶がありますがけれども、随分これも改善されてきたと。一方、算数、これは後でも出ますけれども、小学校算数の2つの三角形の面積の大小を判断するというようなことについては弱みとして挙げられます。

次、53分の11ですけれども、11から12にかけては正答数の分布グラフが示してあります。折れ線グラフが三重県と全国、そして棒グラフが本市を表していますけれども、どの教科も、小中と全国の様子、山型と、その形はよく似ているというのが言えます。ただ、例えば小学校の国語でいきますと、12問正答したと。若干それが全国に比べて少なかった。ちょっと空白がある。算数も、12問のところは山より少し空白がある。この辺りが、やや全国平均を下回っているというのがうかがえます。

中学校については、逆に国語ですと13問のところはちょっと突出している。数学についても、12問のあたりで突出、こういったところ辺が全国平均を上回っているというようなどころがあります。傾向としては同様というようがあります。

次の53分の13です。

ここには、校種・教科別調査結果の概要をまとめさせていただきました。領域別、そして問題形式ごとに正答率をまとめたものですが、いずれも、国語につきましても、算数、数学につきましても、全国と同じような傾向があるかなというふうにうかがえます。

(2)の解答状況、下に問題番号等の表がありますが、白の逆三角がついています。この逆三角は全国平均よりも2ポイント以上低いということでございます。

ここで、特に弱みについて少し中心に説明をさせていただきます。お配りしました小学校国語の問題がございませうでしょうか。1番の問題にカードが1から5というふうに出てまいります。このカードは、観察記録カードなどの積み重ねた5枚のカード。これらを基

に、次の2番の、川村さんは選んだカードを基に、四角に学校の米作りの問題点とその解決方法について書こうとする。あなたが川村さんなら、四角に入る内容をどのように書きますかという問題です。その後の条件、条件というのがいつも課題になってくるわけですが、そのカードの何番目を使う、それぞれ分かることを書く、カードの5を基にして書く、そして字数制限、こういったような問題について弱みがありまして、課題ということです。

昨年度も、この学調の報告をさせてもらったとき、やっぱり記述式、そしてこういった条件で書くことが苦手だという報告もあったところですが、同様の傾向がございました。また後で、改善の方法については御説明申し上げます。

次の53分の14、算数です。

算数を御覧いただきまして、特に、2の(4)、テープを直線で切ってできた2つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだ訳を書くというところに黒逆三角がついています。これは、全国平均より5ポイントも低いというような結果でした。

これも、問題を見ていただきますと、プリントは端折って用意させていただきました。四角の2番に、えいたさんたちはテープを持っています。テープの上の直線と下の直線は平行で、テープの幅はどこも等しくなっていますということから始まりまして、ずっと問題が続くんです。2番にこの問題があります。ここから図形の説明があつて、台形の話があつてずっと続いている。長方形の話になったり、正方形の話になったり、今度は直角三角形や二等辺三角形の話になって、一番最後に(4)の問題が来るわけです。この問題、(4)を見たときに、3.2センチ、底辺は一緒なんですけど、各辺の長さは書いてある。でもこれは高さがないと、そう思い込んでしまったと考えられます。初めのテープが、幅はどこでも等しくなっているという初めの設定が、長い問題の間でどこかへ行ってしまったというようなことで、結局、ここの(4)の正答率が非常に悪かった。

3番の㊸と㊹が、高さが一緒で、それで面積が等しいということなんですけど、4番のこのままでは比べることができないというふうに解答している子のほうが多く、このような正答率が低い結果となってしまいました。当然間違っていますので、訳、言葉や数を使って書きましようというようなことが算数の問題での弱み。特に図形というのも、毎年これも1つ課題かなというふうに思います。

続きまして、中学校の国語に行きますと、中学校の国語はおおむねよくできていますが、三角を見てみますと、推し量る、推すという字が書けなかったということでした。漢字は、年度によって、できる、できないという差があります。去年はできていたと思います。

逆に、記述のところには二重丸がついているというところでもございました。

中学校の算数です。次の16を御覧ください。

これも見てみますと、丸がたくさんついているというところで、おおむね全国よりも高いというようなことがよく分かります。

中学校の英語です。中学校の英語も、17ページをご覧いただきますと、これは出入りが激しいなという感じです。二重丸も多いですし、逆に黒三角もある。黒三角についてですけれども、これも問題はお渡ししております。

四角8番の、英語の授業でブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで以下の問いに答えなさい。こういった文を読み取って、そして横のところから、ブラウン先生が最も伝えたいことを選ぶということなんですが、なぜかこれも少し低かったというので、なかなか分析しにくいです。全体を捉えていないなと感じます。一部分、例えば3番のロボットペット、その言葉に引っかかって選んだ子が、二十何%もいたそうですが、実は、全体的に大事なのは一番最後だというところの捉えが弱かったという結果となりました。これが弱みのある問題の特徴的なことでございます。

18を御覧ください。

ここは、申し訳ないです、全部その前とかぶってしまっています。実は、中学校の英語の話すことにつきましては公開しないということになっていまして、数値は公開していません。ただ、お知らせしますと、全国は12.4、そして本市は13でした。実は、問題が5問あって、例えば動物園をテーマにして、動物園の中の看板を見て、象さんの生まれた日はいつとかどうとかアトランダムに聞いていくわけです。それに対してタブレット上で英語で返していく。そういう即興的なことを聞かれて、例えば、次はどんな生き物を見に行きますかという質問に対して考えてカンガルーと答える。続いてカンガルーはどんなことをしていますか、そんなことをやり取りで答えていくというわけです。全国の様子を見てみますと、5問中ゼロ問、つまり全然答えられなかったという割合が六十何%もありました。本市においては60%がゼロでした。これは、問題がどうだったのかということもありますし、機械のことも影響があるのかなということで公開はないというふうになったのかなという感じはします。即興的な表現、英語というところについても、もう少し大事にしていかななくてはいけないということは思います。

53分の19です。

今お伝えしたような弱みを授業の中でどのように改善していったらいいかということ

ポイントとして各校に配付しました。この冊子をそのまま配付させてもらいました。これまでも、校長会や学力向上研修会、指導課では学力戦隊マナブンジャーというのをつくって、いろいろと助言をしていくわけです。

この10ページにもございますような、問題をどういうふうに捉えるかと。そこに、強みに変えていくためには、どんな目当てでどんな発問をしていったらいいのと。何よりも思考スキル、あるいは読解力の20観点の、例えば国語でしたら要約という20の観点を意識しよう。思考スキルでしたら、関係づけるということを意識して授業に取り組んでいきたいと思います、そんなことを大事に意識づけるように仕上げたところです。

そして、先ほどお配りしましたような新教育プログラム、読む、話す、伝えるプログラム、読解力を育む20の観点も最近つくらせていただきまして、特にこれは3年生、4年生、中学年で活用してもらおうということで、読解力の20の観点を意識したワークブックを配付し、この授業改革、学力向上につなげていこうということで活用してもらっている状況です。

同じようなことですが、20ページでは、小算ブルーの解答としてこのようなところです。もしも授業で行ったらどういうふうな発問、問いをするのか。思考スキルは関連づけるのである。最後の授業のポイントを示してありますように、様々な式を出し合うだけではなくて、どのように考えたのかということや、式の意味を問い返し、考えさせることを大事にしていきたいと思います。よく授業研に行くと、早く簡単にすることばかり言って、式の意味までしっかり考えていない授業が多いんじゃないかという話もありますので、式の意味を問い返し、考えさせることを大事にする、そんな授業をしていくということです。

次は、21ページは中国レッドのところ、文章の構成等の読解力、文章構成というふうなところの読解力の20の観点の1つを大事にし、意識していきましょうというようなところが書かれています。

22ページは数学です。

ここも先ほどのように関連づける。表や式とグラフといろいろ関連づける。そういったところを明確にしていきたい。

23ページは英語です。このような形、今の問題についても、どうやっていったらいいかというところをポイントで示してあります。

次が24ページです。

今度は、児童生徒の質問紙の結果です。

これについて、53分の25のこにゆうどうくんが言っていますとおり、小学校、中学校もそうなのですが、国語は大切だと、将来に役立つと、そのことは感じている子どもは非常に多い。ただ、国語の授業が好きという割合が全国に比べて少なかった。授業が面白くないんだということを感じています。いかに面白くしていくかということが大事ななと思います。

下にありますように、算数のところも同様です。算数の勉強は好きですか。全国よりは上回っているものの、63.8%、小学校です。だんだん肯定的回答が減っているのが気になる。逆に中学校は上がっているんです。なぜかよく分かりません。コロナの影響もあるのかなと。中学校はどうしたんやろうとか。若い方が教育実習で経験していない、振り返りのさせ方などを知らないとか、いろいろ想像はしますけれども、分析し切れていないところです。ただ、いずれにしても、国語にしても、算数、数学にしても、つきたい力をはっきりさせて、そしてめあてや振り返りをしっかりして、そしてやり切った、分かった、達成感、そういったものを大事にしていく授業をやっつけていかなくてはいけないと感じています。

次の26ページも、ずっと大切だという思いが大変強い。よく分かったというのもあった。よく分かっているのと好きとはまたちょっと違うというのもありがちなことだなと思います。

53分の27は英語です。

これも同じような感じですか。英語が好き。できるだけ小学校のうちに英語は好き、ここで英語嫌いにはさせたくないなというのは思います。ちょっとずつ中学校になると減ってはきますが、全国的に肯定的な回答としてはまあまあなのかなといった状況がございました。

53分の28が一応まとめたものです。

考察もこのように書かせてもらいました。繰り返しになりますが、その下の黒板のところにありますように、分かったと実感させるための取組ということで、ICTの効果的な活用を図る、そして、言語活動でパンフレット、リーフレット等を作成して終わるのではなくて、作成したものの表現の仕方について推敲する指導を充実させていく。コミュニケーションを大切に、会話を続けることを意識して、相手に伝わることの楽しさを実感させる。

日常生活との結びつきを実感させる、いろいろなシチュエーションによって英文を書く

活動を授業内で取り組ませる。データの活用など、子どもたち自身が作成したデータや実際のデータを用いて、複数のデータから読み取ることの楽しさを実感させるというようなことをぜひ取組として進めてまいりたいと思います。

29からは、学習の基盤となる力に関する質問ですが、御覧ください。

その中で、言語能力ということと、情報活用能力ということと、問題発見・解決能力ということの3つを主に絞り込んで示させていただきました。

53分の30に、話す・聞くというところがあります。

話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますかと。これも、徐々に小学校も中学校も上がってきている感じがしますが、全国平均に比べると、どっちとも言えない。

課題は、今言いましたように、書くです。この下の書くというところがまだまだ課題が残っています。

強み、弱みを書きましたし、今の読解力向上の20の観点を活用しながら発達段階に応じた言語活動を充実させていきたいというふうに思います。

53分の31の情報活用能力ですけれども、この中で気になるのは、去年も御指摘いただいた総合的な学習の時間です。自分で課題を立てて、情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますかと。これは、非常に肯定的回答は全国に比べると少ないなと思いますし、逆に、総合的な学習の時間はやり方も含めて見直していかないといけないと思います。もっと大事にしていきたいなということを指導課の中でも話し合っているところです。

次のページに行ってください。

情報活用能力のところについては、このように示させていただきました。

問題発見・解決能力も御覧のとおりです。これまでも、下に書いてありますように、四日市モデル、問題解決能力向上のための5つのプロセスなどを意識して、各教科の授業の中で大切に育てています。授業づくりガイドブックというのをまたこの4月に配付させてもらいましたが、それも活用してもらっているというふうに思っています。引き続き継続して授業改善を進めていきます。

次の53分の34を御覧ください。

特に、キャリア教育に関する質問を特出しさせていただきます。自分にはよいところがあると思いますか。将来の夢や目標を持っていますか。地域や社会をよくするために何かし



てみたいと思いますか。こういったことはキャリアにつながるところがあつて、もうちょっとと言うと非認知能力というのです。これも随分昔は、夢や目標が出ないというように四日市には課題があり、そしてビジョンの中で夢や志というものが出てきたというふうに思いますが、これも随分増えてきているというところがあります。ただ、自分にはよいところがありますかと、それももっともっと増えていいのかなと思います。別紙にまたお配りをしました、これはまだ完成していません。四日市市の子どもたちの学力、学習状況の生活状況のリーフレットを今作っているところです。先ほど来の、これは保護者や地域の方へお配りするものなんです、この中で1枚目に、今までお伝えしたようなところが書いてまして、次のページには、児童質問紙から見える四日市市の子どもというようなことを載せさせていただいています。今のように、自分によいところがあると思えること、それとの関係というようなことです。

下に考察がございますように、自分によいところがあると思えること、ほかの人の役に立ちたいと思えること、ほかの人から認めてもらっていると思えることなど、自己有用感が育まれている子は、小中学は学力が高いというような相関関係があります。そのためにどうしていったらいいか。褒めること、認めることというようなことですが、子どもたちが評価してほしいと思うのはどんなときかということも具体的にこうやって示させていただいています。自己有用感というのは、いろんなところでまた大切にしていかなければいけないのかなと思います。

36ページには、学校に行くのは楽しいですか、そういったことも書いています。友達関係に満足していますか。学校生活全体に対しての意識の結果は御覧のとおりです。

考察にもございますように、53分の37にございます、小学校では肯定的回答の割合が全国平均を0.3ポイント下回りましたが、中学校では、学校が楽しいというのが4.3ポイント上回っていた。小中ともに、自分と違う意見について考えるのが楽しいと思いますか、友達関係に満足していますかにおいては全国平均を上回っています。学校教育の中で、友達と関わり合う活動を大切にしていると考えられると思います。こういったようなところら辺で、ほかにも、人が困っているときに助けますかと。そんなのも上回っていましたし、健全に生活しているということが分かります。

一番下の丸ですが、ふだんの生活の中で幸せな気持ちになることがどれぐらいありますかの質問については、小学校、中学校と全国平均を下回っていると書いていましたが、上回っているの間違い。上回っていますので、これも幸せというのが大事だなというふうに

思います。

続きまして、53分の38からは、生活習慣と学力の関係を表したものです。

これもいつも言われているとおりです。朝食の関係とか、寝る時刻の関係とかというようなところで、特に注目しているのは、53分の39で、家で自分で計画を立てて勉強をしていますかと。これでいくと、自分で計画し、やっている子は、やっぱり学力は高い。ところが、下の授業以外に勉強している時間、それ以外に勉強している時間と学力というのは、ずっと上からあまり変わらない。時間的にも変わっていないということが分かります。3時間以上、2時間以上、3時間より少ない、1時間以上、2時間より少ない、30分ちよっとしておったものと3時間でもそんな変わらないんだということが見えてまいりました。

というようなところで、次の、今お渡ししたリーフレットの3枚目になりますけれども、学習習慣と学力の関係はというようなところで、大事にしていきたいことは、家で自分で計画を立てて勉強することを大事にしていきたいと。量より質ということをお大事にしていきたいと。自分で選択肢、見通しの持てる取組、組み立てる学習へというようなことで、このようなPDCAということをお保護者の方にも周知し、子どもたちが自主学習を進めるようにしていきたいなと思っています。

53分の41からは、学校質問紙、学校の管理職を含め、教員が答える問題ですので御覧ください。この辺も、傾向は例年と変わりません。

53分の43、総合的な学習の時間、本市では、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ、表現に至る探求の過程を意識した指導をしていますかと。97.3が肯定的に答えてはいるものの、どうなのかというふうには思います。小中との連携も、学びの一体化もありますので、全国に比べて随分進んでいるのかなと、これは実感することができます。

5番、ICTについては、教育支援課中心に、全国よりも上で、随分進んでいると思います。

というようなところで、53分の46からは今後の取組の重点としてまとめさせていただきました。先ほども申し上げた、授業づくりガイドブックを使った授業改善ですとか、いろんなプリント、これまでの学習問題をもう一遍振り返らせる取組ですとか、大事にしたいことをまとめています。

特に、53分の47の4番、先ほども少し触れましたけれども、非認知能力の育成、こ

れをもっと大事にしていきたいなというふうには思っているところです。

以上、ざっと報告になりましたが、これで終わります。

○廣瀬教育長 ありがとうございます。

今、たくさんの資料、全国学力・学習状況調査結果の分析という資料に基づいてざっと説明をしていただきましたですけど、御確認や御質問事項がございましたらお願いいたします。

伊藤委員、お願いします。

○伊藤委員 毎年思うんですけども、結果が出てきてというか、その前に、調査が終わった段階で、いろいろ情報とか、また自分たちでの結果を見ながら次に向けてのスタートを切っているというか、そんなふうなことをされているというふうには聞いておるんですけども、短い期間でこれだけの資料というか、よく考えてまとめているなどということで、本当に頭が下がる思いです。

ポイントポイントでは幾つかあるんですけど、自分自身、この市がまとめたものを各学校が見ると、市の傾向というのはこういうことであるというのは大体つかむと思います。市は市全体の傾向をつかんで、これに対してどういうふうな手を打っていかうか、いいところはやっぱりしっかりと確かめて、そして課題となるところをやっつけていかうかという、そういうことになると思うんですが、要は、この数値的なこともそうなんですけれども、自分は、各学校がいかに充実していけるかというのが一番大事であるし、この学調そのものの目的が、自校の課題をしっかりと捉えて、そのものをしっかりと取り組んでいくことで、子どもたちの学力であり、資質能力を上げていくということが目的になっていると思いますので、そういう意味で、各校が取組をどう進めるかということをどんなふう考えているのかなど。

市のことも見ながら自校の分析をして、それを基にどう実践していこうかという、いわゆるPDCAを考えていくと思うんですけど、先ほどの、例えば総合的な学習の時間の在り方にもありましたように、各校はやっているよと。圧倒的に数値は高いですね。ところが現実には、子どもたちがそれに対して問題解決的な過程であるとか、子ども同士のやり取りの中でそれぞれが高め合えるような活動ができているのかということについては、やや疑問が残るというふうになっていると。

このギャップのところは、実は総合的な学習の時間は特に顕著に表れているんだけど、ほかの教科、国語においても、算数においても、英語においても、そういうところはどう

なのかという視点で、各校がうちの学校はこういうストラテジーといたしますか、戦略を持ってこの課題に取り組むんだということを明確に職員全体として持っておれるかどうか。職員全体じゃないと、その学年だとか、調査のあった、対象だった子どもたちへというだけじゃないと思うので、そういうレベルでやっていけるかというのが、学調は何年も続いてきていますから、そろそろそういう意味で学校が捉えて取り組むということがかなり問われてくるのではないかと。

そういう意味で、そこへ事務局としてはどうアプローチして、そういうふうに進められていくかということをサポートしていくという、既にいろいろしてもらっています、いろんな資料も出してもらっているし、そうなんだけど、その資料、今回の資料にあるような授業の改善のポイントが挙げられていて、とてもよく考えられていると思うんです。この中で、授業のポイントというのが挙げられていますよね。これが、この問題ではこうだけど、ほかの全体的な、国語の学力を上げていくために、これも併せてどんなふうな、言わば年間というか、いろんな単元において、教材において、こういうことを積み上げていくことで改善というか、アップにつながるんだという、そういうビジョンを持たないとなかなか上がってこないということがあって、国語の例えば学習でいうと、一定これが始まったときに、四日市が国語の授業の在り方を本当に変えていこうということで相当やり方を変えたと思います。教科書も変わりました。そういう中で、特にB問題の正答率というのがぐぐっと上がったと思うんですね。特にそれに力を入れた学校は上がった。

じゃ、今、その辺りがどうなってきたのかと。ちょっとよどんでいるかも分からないし、もう一回確認してやっていくということで、求められていることはそう変わっているわけではないということを考えると、その辺りを事務局として各学校への指導といたしますか、支援という形で進めていただくことで、また変わっていただけるのではないかとということを感じました。

全体的なことで、今後に向けてのところで特にその辺りを感じます。今後の取組の重点はそう変わっているわけではないので、ただ、問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック、授業改善のポイントは、より具体的に、今回、例えば昨年のもうちょっと見直して分かりやすくされたと思うんですね。こういうふうなこととかを重ねていくこともやっぱり大事なので。

これをざっと見ると、今までと一緒にやなということではなくて、それを本当に自分たちの実践に照らし合わせながら、そうしたほうが、先生たちも目標もあるし、やったことに

についての自信とか、また、改善点とか、もっと分かりやすくなるし、横とのつながりも、先生同士のやり取りの中で、学年同士のつながりの中で、子どもたちをどうやって高めていこうかという、そういう方向へベクトルがもっと集中していけるのではないかなというような勝手なあれですけども、そんなふうなことを望むところです。

先ほど紹介があった英語の聞く問題については、自分も非常に疑問なんですが、四日市としては、ネイティブを随分前から入れながらこういうことに対応していこうとしてきた部分があると思うんだけど、その入れたらいいというだけじゃなくて、どんな方向を目指していくかということも、今回、問題を作ったところが確かにレベルが高かったといえども、それだけじゃさっと切るのではなくて、求められている部分は何だったのかと。一応、恐らく、こういう方向を目指したいんやとか、こういうことを子どもたちには力をつけてほしいんやというメッセージであると思うので、その辺りも今後また検討していただけたらというふうに思いました。

以上です。

○廣瀬教育長 コメントはありますか。

○草川指導課長 こちらが示していることを各校で活用させる、していくかというのは本当に大事で、これも失敗したことは、よく担当が分析して、それを皆で共有して、それで終わっていただくだけではなくて、やっぱり全員です。全員でするときに、例えば指導主事も入って、そこで今のような読解力の20の観点とか思考スキルと絡めながら意識して、実際に授業をするにはどうしていったらいいかということもちょっとずつ今年も大事にしているところです。

それと、一人一人に活用できるように全部QRコードをつけて、これをちゃんとタブレットで読み取って自分の授業に生かしましょうというような取組もさせてもらいました。全員に浸透させるというような手だてを今年は大変にしているんですが、これもまだまだ十分ではありませんので、またいいものを構築したいと思います。

英語につきましても、おっしゃるように、何を求めるか、まだちゃんと分析し切れていないと思いますので、いろんな力が大切なんだということも考えたいと思います。ありがとうございます。

○伊藤委員 ぜひよろしくお願いします。

○廣瀬教育長 よろしいですか。

堀委員、お願いします。

○堀委員 私の中でもまだ全然まとめ切れていないところもあるし、情報が多過ぎてまだ整理し切れていないんですけど、四日市の保護者、地域の皆様へと配るやつ、今作ってもらっているんですよね。2ページ目は、多分、保護者が見て、なるほど、褒めればいいんやなと思うんですけど、3ページ目、4番のリサーチから始まるこの絵を見たときに、保護者はきつととても追い詰められたような気持ちになると思うので、もうちょっと具体的にというか、もうちょっとハードルを下げられるような書き方をしていただきたいなと思います。

結局、家庭でやらなあかんのは分かっているけど手が回らない、学校から帰ってきた子どもの勉強を見られていないという自分で保護者は分かっていると思うので、そこをもうちょっと優しい言葉で書いてください。すごく私自身も今、追い詰められた気がしました、ここをやらなあかんなど分かっているんやけどなって。

○伊藤委員 保護者として何をしたらいいのかなというのがね。

○堀委員 具体的な時間の取り方とかが分からないし、その褒めるにしても褒め方。御褒美をあげればいわけじゃなくて、内発的な自分でやらなあかんという動機づけを自分で自らできるような声かけというノウハウを、保護者が、そういうふうに言えばいいのかと思えるような何か働きがあったらいいんですが。読む人はちゃんとやる人だろうし、多分、そんな余裕がない人は、これを配ったとて読まないのかなって思ったりもします。

○草川指導課長 貴重な意見、ありがとうございます。ぜひ参考にさせていただいて、具体的な言葉をかけるようにします。

○廣瀬教育長 よろしいですか。

○伊藤委員 先ほども言いましたけれども、各学校が、子どもたちに対話的な部分であるとか、問題解決の過程における関わりであるとか、大切にされているなというのは出ていますよね。四日市が問題解決のことを言い出して10年以上たつと思います。それを地道に、途中、何をしたらええか分からんとかというのもあったか分からんけど、自分は、地道にやってきた成果が出てきたなという本当うれしい思いで見させてもらったところもあります。やっぱり教育はすぐに結果がというより、継続的というか、そのスパイラル的な取組があってこそ、子どもたちは伸びていけるんやなと思いました。

○廣瀬教育長 よろしいですか。

先ほどの指導課長の課題の気づきがあったんですけど、学校と子どもの意識のギャップみたいところ、特に総合的な学習の時間の構成については、学校はやっているよと言う

んだけど、子どもとして、自分で課題を見つけて、自分で情報を取って、分析して整理して発信するという、そういった探究活動になかなか単元構成がなっていなかったりするところは、もう少しでこ入れしていく必要があるのかなというふうに思っています。

そういった横断的な学習が、国語や算数、数学といった個々の教科の学力の向上にもひいてはつながっていくんやろうなということでもありますし、先ほどの堀委員から指摘があった学習習慣と学力の関係のコラムのところでも、自分で選択し、見通しを持って取り組むためのモチベーションって、じゃ、何なんという、知ることとか学ぶことが楽しいという原動力がなかったらここへは結びつかない。中学生は、現実的な課題として入試という、そういう大きな目標があって、そこに向かう、目指すものというのが明らかになるので、学習へのトライというのは嫌々ながらも頑張ることができるところはあるんですけど、その辺りの原点的な知ることとか学ぶことって、本当は楽しいんやということを植え付けられるように、知的好奇心を育むということも耕していかなあかんのかなとは思っています。

あと、英語の話すことについても、問題のレベルが高過ぎるという評価もあるんですけども、四日市が取り組んでいる、例えば英検 I B Aを入れて、そういった客観的な学力をはかってみて、足りやんところを進めていくであったり、英語で地域のことを発信する活動、四日市プロジェクトみたいなものも組み入れたり、Y E F とパフォーマンステストで対面で話をする、こういう地道な取組は方向性としては間違っていないのかなと思うんです。

あとは、個々の英語の先生方の、先ほどのお話じゃないですけども、一人一人にどれぐらい意識を持って浸透して、今あるツールを使って学習を深めていただくか、この辺りが、英語だけの課題ではなくて、どの教科も、どうやって我々が今把握したことを学校及び先生方一人一人に意識して取り組んでもらえるか、ここの取組の工夫が今後要るのかなというふうには思っています。

ほか、いかがでしょうか。

私から、53分の47の非認知能力の育成の何か具体の考えておることがあったら。4番の特出しのところで、ここは第4次ビジョンで大事にしていこうという、コロナ禍における課題の考え方の中で示しているところなんですけど、せっかく書いてもらったので、何か具体があったら教えてください。

○草川指導課長 これは、以前から申しましたような新教育プログラムのバージョンをア

ップするに当たって、非認知能力というものを入れ込みたいというようなことがあります。今年度は、指導課の研修で、岡山大学の中山先生を講師に招いて、いろんな方に非認知能力について理解を深めた研修を行ったところです。また、今度も来ていただいて、指導主事等にも話をしてもらおう機会を設けております。そういったところ辺を計画していきまして、まずは、非認知能力というのはどんなものなのかということを経理局としても整理して理解しながら、どのようにそれを学校に落とし込むかということを経理しているところです。

○廣瀬教育長 伊藤課長補佐、お願いします。

○伊藤指導課長補佐 指導課、課長補佐の伊藤です。

非認知能力に関わりましては、実は、本市は全く初めてではなくて、以前から本市は人権・同和教育等を中心にしながら、仲間づくりやとか、あるいは自尊感情をつくるようなカリキュラムというのはすごくやっております。したがって、それが子どもたちの質問紙にも表れていて、全国よりも自己有用感であったりだとか自分が認められている感覚といったところが高い。それが土台にあるがゆえに自分らの学びに変えるという、そういった素地もあるというふうに認識しています。

それをより具体的に表していくといったところで、非認知能力というのを新教育プログラムのそれこそ6本の柱があるんですけども、その土台になっていくものなんだということ、その図にもあるような、こういったことを捉え、そこもしっかり位置づけた上で意識して、そこもさらに高めていきたいと思ひます。

○廣瀬教育長 ありがとうございます。

以前は、自尊感情が割と低かったんやね、昔、四日市の子どもたち。それが大分耕されてきて、今、全国より肯定的な回答が上がってくるということは、先ほど指導課の補佐が御説明させてもらったとおり、そういった取組は進めてきた中で、今、文科省がこの指導要領で学びに向かう力の育成という究極の資質能力を示してきましたので、これをどうやって具体で育むかと、数値ではかれないものをどうやって伸ばすかということについて、今、方向性を明らかにするための取組を指導課で進めてもらっていますので、また具体的な報告ができるようにさせていただきたいと思ひます。

ほか、よろしいですか。

資料のボリュームが大きかったので、また、お気づきのところがあれば、この後でも、また次回のところでも、御意見、御質問等がありましたらお願いをしたいと思います。

それじゃ、1時間ほどたちましたので、10分ほど休憩をさせていただきたいと思ひま



すが、よろしいでしょうか。

それでは、10分休憩を取りますので、短いですが、あの時計で40分から再開をいたしたいと思います。ありがとうございます。

午後 2時30分 休憩

午後 2時40分 再開

○廣瀬教育長 それでは、会議を再開いたします。

## 2 令和5年度の教育委員会における点検及び評価について

○廣瀬教育長 続いて、報告事項、令和5年度の教育委員会における点検及び評価についての説明をお願いします。

教育総務課長、お願いします。

○森教育総務課長 教育総務課長、森でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、資料の53分の50ページを御覧ください。

こちらでございますが、去る10月11日の定例会で御協議いただきました令和5年度の点検・評価について御報告をさせていただきます。

こちらの資料で、1つ目の目的ないしは2つ目の四日市市教育施策評価委員につきましては、先の定例会で御案内をさせていただいているとおりでございます。なお、委員の委嘱につきましては、令和4年度に引き続きまして、三重大学教育学部教授、織田泰幸様、四日市大学総合政策学部教授、高田晴美様にお願いをいたします。

引き続きまして、53分の51ページを御覧ください。

3つ目でございますが、実施計画につきましても変更はございません。点検・評価の総括の場として、教育懇談会兼施策評価委員会、7月頃に1回実施といたしたいと思っております。

続きまして、4つ目、今年度の評価項目についてでございます。

前回、定例会におきまして重点評価項目について4つの案を私どもから候補とさせて御提案をさせていただきました。皆様に御協議をいただいた上で、今回御意見等を踏まえまして私ども事務局でも検討を進め、令和5年度の重点項目につきましては、ビジョンの基本目標2、体力・運動能力の向上と、同じく、基本目標2、人権教育の充実とさせていただきます。

まず、1つ目の重点とさせていただきました体力・運動能力の向上についてですが、伊

藤委員からは、現状を鑑みると評価いただくべき項目であり、新5分間運動など、授業づくりについては一定の評価をいただけると思うが、子どもたちの体力向上に向けて今後どう進めていくべきかを確認する必要があるのではないかと御意見をいただきました。

また、数馬委員からは、体力・運動能力は健康な体づくりにつながり、それは将来に関わるものであることを教育していく必要があること、日常的な体力の向上、運動習慣や運動できる環境づくりなど、市としてできる施策が必要であるとの御意見をいただきました。

もう一つの重点とさせていただきました人権教育の充実についてですが、堀委員からは、メディアリテラシーなどは学校と家庭が連携した取組となってほしいこと、また、SNSの使い方などについては早急に取り組まなければならない課題であるため、今後検討が必要になるのではないかと御意見をいただきました。

また、豊田委員からは、子どもたちに「生きる力」、「共に生きる力」をつけることが大前提であるとする。人権教育は非常に重要なものであり、人とのつながりの中で生きていくということはどういうことなのかを考え、それを基盤としてこれからの社会を生きていくことの大切さを学ぶことは必要であり、重点となり得る項目であるとの御意見をいただきました。

なお、前回、以上の2つと同様に御意見をいただきました重点項目の案のうち、基本目標の2、読書活動の充実につきましては、伊藤委員から、活動を通して、表現力、思考力の育成につなげるのが重要であるとの御指摘をいただきました。この10月から電子図書館がスタートしたことを受けまして、学校との連携も同時に始まったところということもあり、子どもたちにつけたい力と読書活動の具体的な取組につきまして、施策や取組を整理するという点で、次年度以降に点検・評価を行ってはどうかと考えてございます。

また、基本目標3、四日市の資源を生かした教育の推進につきましては、堀委員から、郷土の偉人から学ぶことや学校での取組を通して、自分たちの育った郷土を誇りに思う気持ちの醸成といった観点で御意見をいただくとともに、先日の教育懇談会におきまして、水沢小学校の地域と連携したカリキュラムからも、各学年の狙いに応じた各地域における取組などにつきましても、四日市市内の地域資源という捉えだけではなく、各地域にある地域資源の発掘や再整備についても御意見をいただいたと考えてございます。この観点につきましては、継続評価項目としております新教育プログラムの柱と四日市ならではの地域資源活用プログラムの中で、点検・評価を行ってまいりたいと考えております。

なお、評価の参考としていただくものについては、記載の資料や視察などを考えており

ます。また、継続評価項目として、新教育プログラム、四日市市GIGAスクール構想、働き方改革につきましても、取組状況を整理し、次年度の施策展開に生かしていきたいと考えております。

最後に、資料53分の53ページを御覧ください。

こちらは、点検・評価に係る実施要綱となっております。御参考までに掲載しましたので御参照ください。

以上が、令和5年度、教育委員会の点検・評価に係る報告となります。どうぞよろしくお願いいたします。

○**廣瀬教育長** ありがとうございます。

前回、たくさん御意見をいただきましたけれども、事務局としては、体力・運動能力の向上と人権教育の充実、この2つを重点評価項目として提案をさせていただいたところです。ほかの読書活動の充実であるとか、四日市ならではの教育の推進については、新教育プログラムが継続評価項目となっていることから、そちらで今後継続して評価は進めていくものの、次年度以降の重点項目として捉えたらどうかという提案でありましたが、このことについて御意見がございましたらお願いいたします。

伊藤委員、お願いします。

○**伊藤委員** 今、事務局によく整理していただいて考えていただいたので、何も自分としては異論もないところなんですけれども、人権教育の充実については、今言われましたように、「生きる力」、「共に生きる力」、どうしてもこれは必要な力、教育であるということ、これはそのとおりですし、心と体の健全育成といいますけど、特に心の健全育成については、人権教育というのは必要不可欠なもの、これは皆さん、おっしゃるところだと思っています。

本市が、今、この中で、特に施策の方向性として、学習の内容として、メディアリテラシーというのを1つ視점에挙げています。それから人権フォーラムを挙げて、これを中心にとということではあるので、このことを切り口にして本市の人権教育の進める状況と今後の方向性を、またいろいろ施策という意味でも、教育という意味でも、点検・評価していただけたらなというふうに自分は思っています。

特に、人権の重要性というということについては、知識として理解するということがまず大前提として必要だと思うんです。ただ、これでは不十分で、ビジョンにも書かれていますように、人権を尊重する行動力の育成と、これを育てていかないと、本当の意味で人

権教育の目標には達しないということでもありますので、行動力に結びつける教育を進めるということで、そういった視点を大事に自分は見ていきたいし、評価も、また施策としての方向性とかを見ていただけたらいいし、また自分も考えたいなというふうに思いました。

以上です。

○廣瀬教育長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。特によろしいでしょうか。

今年度は、体力・運動能力の向上と人権教育の充実の2点を重点として評価をしていきたいと思います。また、あわせて、新教育プログラム、四日市版G I G Aスクール構想、公立学校の働き方改革、この3点については、継続評価項目として点検・評価を進めていきたいと思います。

それでは、今年また1年よろしくをお願いします。

## (2) 議案

### 議案第25号 四日市市立幼稚園条例の一部改正について

○廣瀬教育長 じゃ、続きまして、これより、さきにお諮りいたしました非公開の案件に入ります。

傍聴の方はお見えになりませんですね。